

はしがき

このたび、向井信夫文庫冊子体目録が刊行の運びとなりました。和本の蒐集家として広く知られた向井信夫氏のコレクションが専修大学図書館に移譲されたのが2009年、現在に至る間に文庫本を用いた展示が何度も開かれてきました。ただ、全体像把握には必須とも言うべき目録の作成には時間がかかりました。ようやく、より多くの人利用に供することができる目録が完成したことは、少々遅きに失したかもしれませんが、専修大学図書館としてささやかながら一つの責任を果たすことができたのではないかと考えております。

本目録は、江戸期和本編として本文1部、索引1部、図書編1部（本文・索引を含む）の3部構成となっています。江戸期和本編は戯作（江戸後期小説）のコレクションを中心とした目録となっており、その質量は国内有数のものであり、学問的にもきわめて有為であると思われます。また、これには明治期以降に刊行された復刻版も含まれています。図書編は、向井氏が集められた、近代以降に刊行された書籍の目録となっています。

故向井信夫氏の人となりや向井文庫の詳しい特徴についてここで詳しく述べることは控えさせていただきますが、良本を求め多くの和本を集められた一方で、その和本を研究者や大学院生に惜しげもなく貸し出され、さらに的確な助言をされたと伝え聞いております。このお話は、在野の和本蒐集家としての向井氏の姿をよく表しているように思います。向井氏は蒐集する喜びに自足するのではなく、多くの研究者にご自身のコレクションを開示することで、学問が深化することをなによりも強く望んでいらしたのです。

目録作成にあたっては細心の注意を払ったつもりですが、データベースによる和古書の冊子体目録を刊行するのは本学では初めての試みですので、何か誤謬や誤脱があるかもしれません。お気づきになられた際にはご指摘いただけましたら幸いです。

最後に、故向井氏のご遺志を受け継ぎ、この目録が広く活用され、学問・研究の発展の一助となることを切に願ひまして、刊行の辞とさせていただきます。

平成29年1月

図書館長 坂野 明子